

# 中期経営計画の進捗状況

## 差別化の加速－交通産機品

2006

2008

2015

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

2006

2008

2015

そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

---

## 目次

- I. 中期経営計画(2006-2008)の進捗状況
- II. 交通産機品カンパニー事業戦略
  - 差別化の加速 —

# I. 中期経営計画(2006-2008)の進捗状況

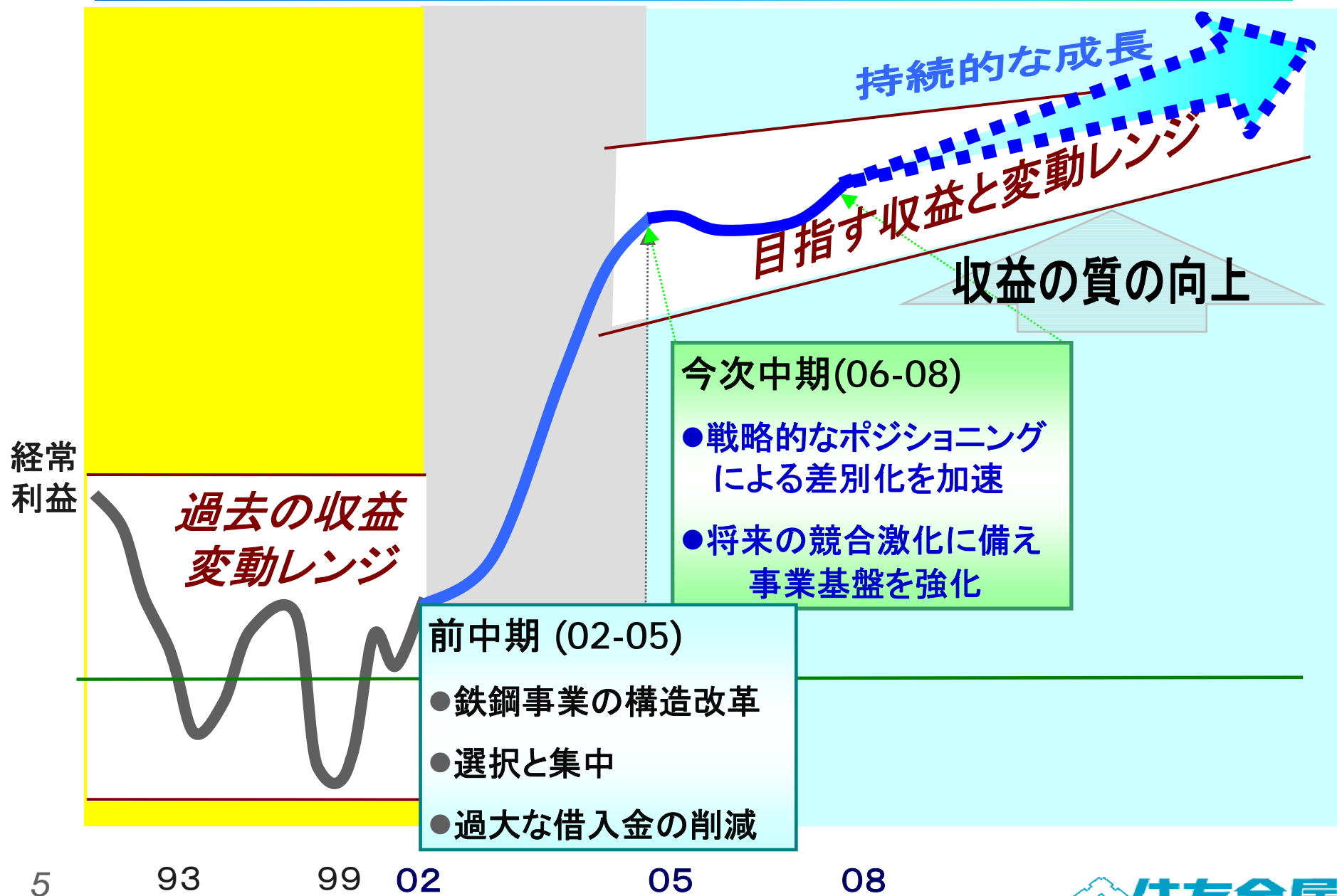
2006

2008

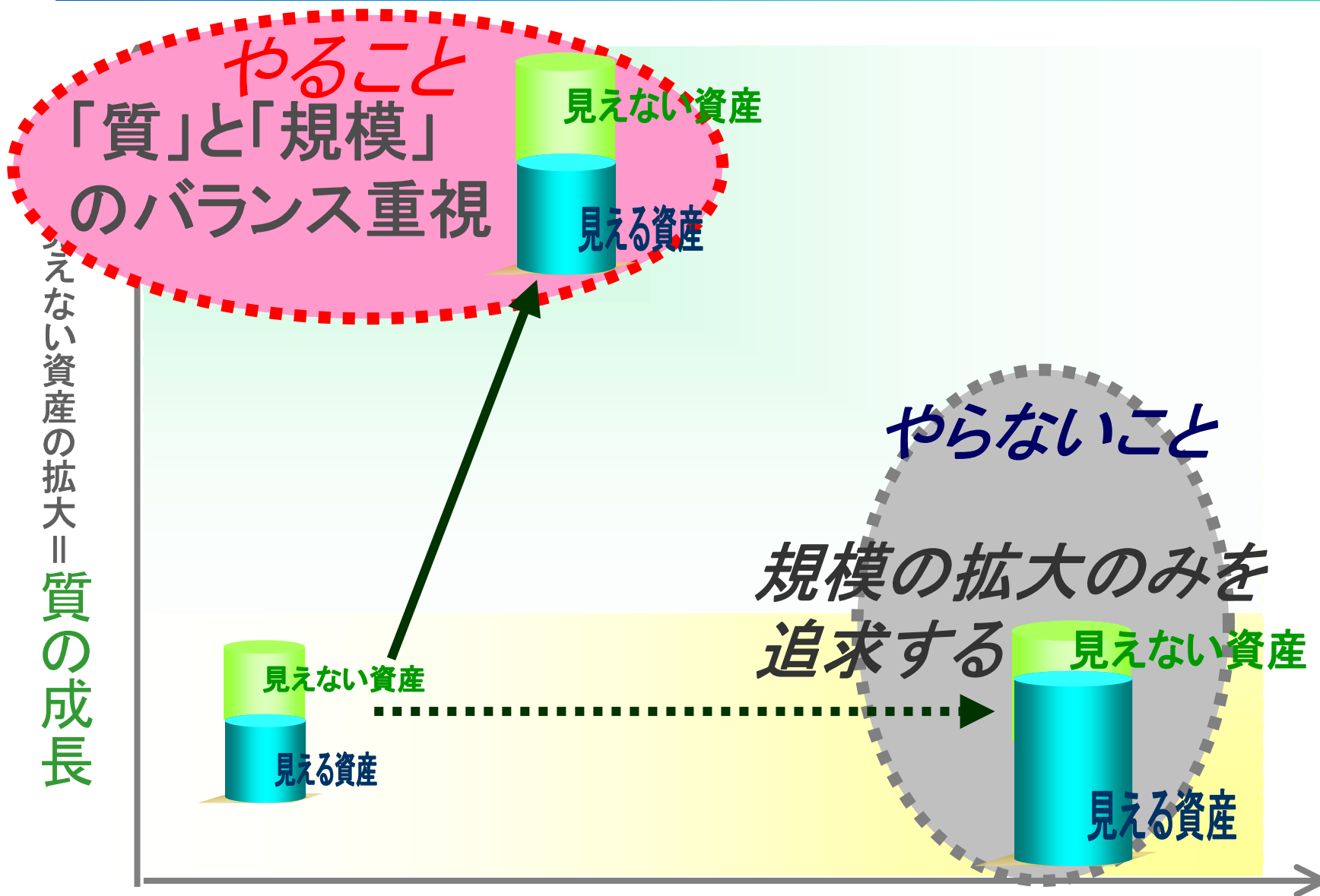
2015



# 成長に向けた堅固な事業基盤の確立



# 成長の方向



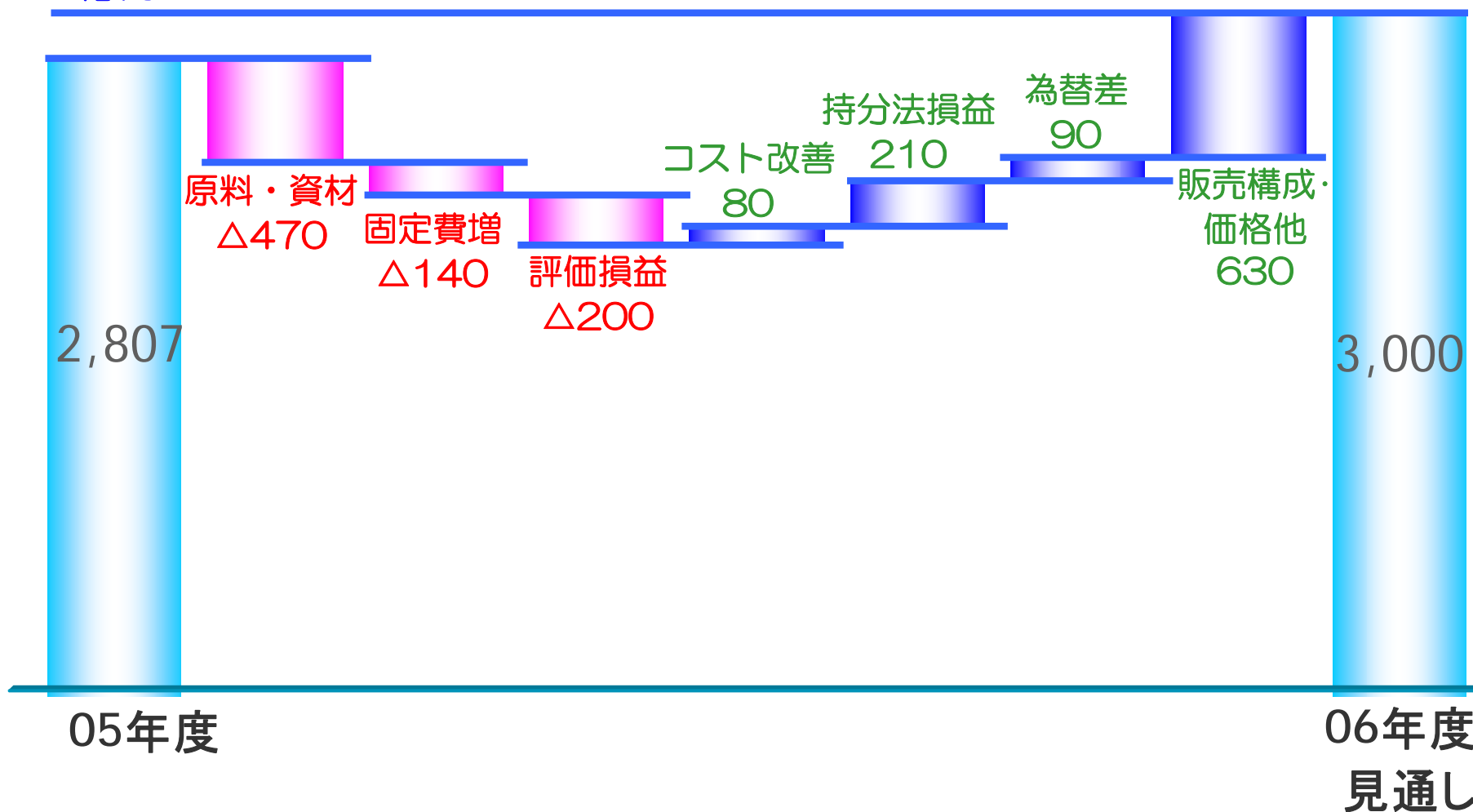
# 中期経営計画における連結財務指標

億円	05年度実績	06年度見通し	08年度計画
売上高	15,527	15,600程度	16,200程度
営業利益	3,058	2,800程度	3,000程度
経常利益	2,807	3,000程度	2,900程度
当期利益	2,212	1,900程度	1,800程度
総資産	21,133	21,800程度	23,800程度
借入金	6,797	7,200程度	6,800程度
自己資本	7,208	7,900程度	10,700程度
ROA	14.5%	14%程度	13%程度
自己資本比率	34.1%	36%程度	45%程度
D/Eレシオ	0.94	0.91程度	0.6程度

# 連結 経常利益増減 (05年度→06年度見通し)

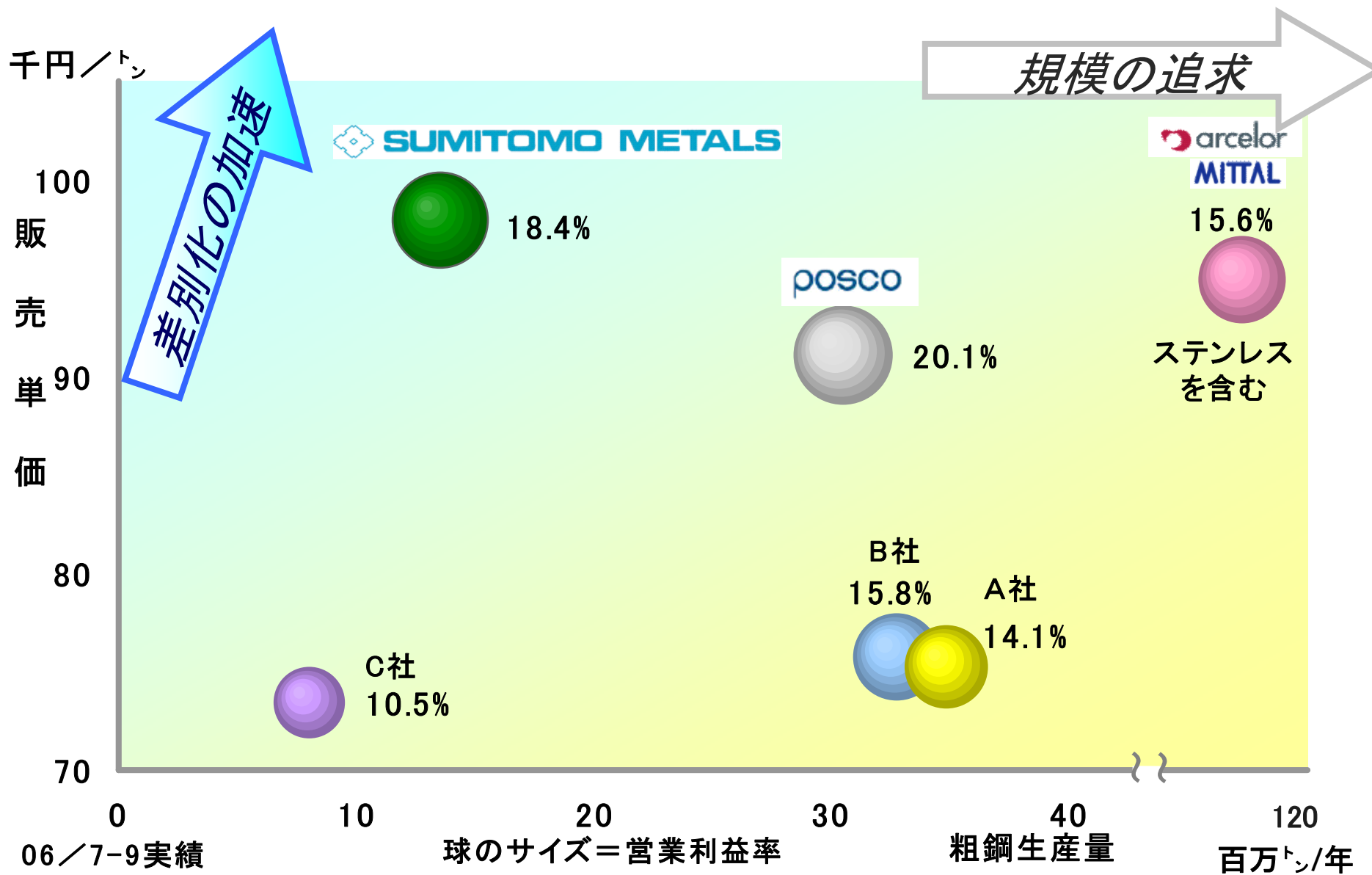
億円

200億円好転





# 成長の方向



# 自己株式の取得について

## ■ 自己株式を取得した理由

経営環境の変化に対応し、機動的な資本政策の遂行を可能とするため。

## ■ 取得の内容

(1)株式の種類	当社普通株式
(2)株式数	1億6,000万株 (発行済株式総数に対する割合3.33%)
(3)株式の取得価額	700億円
(4)取得した時期	2006年11月

# 差別化の加速

2006

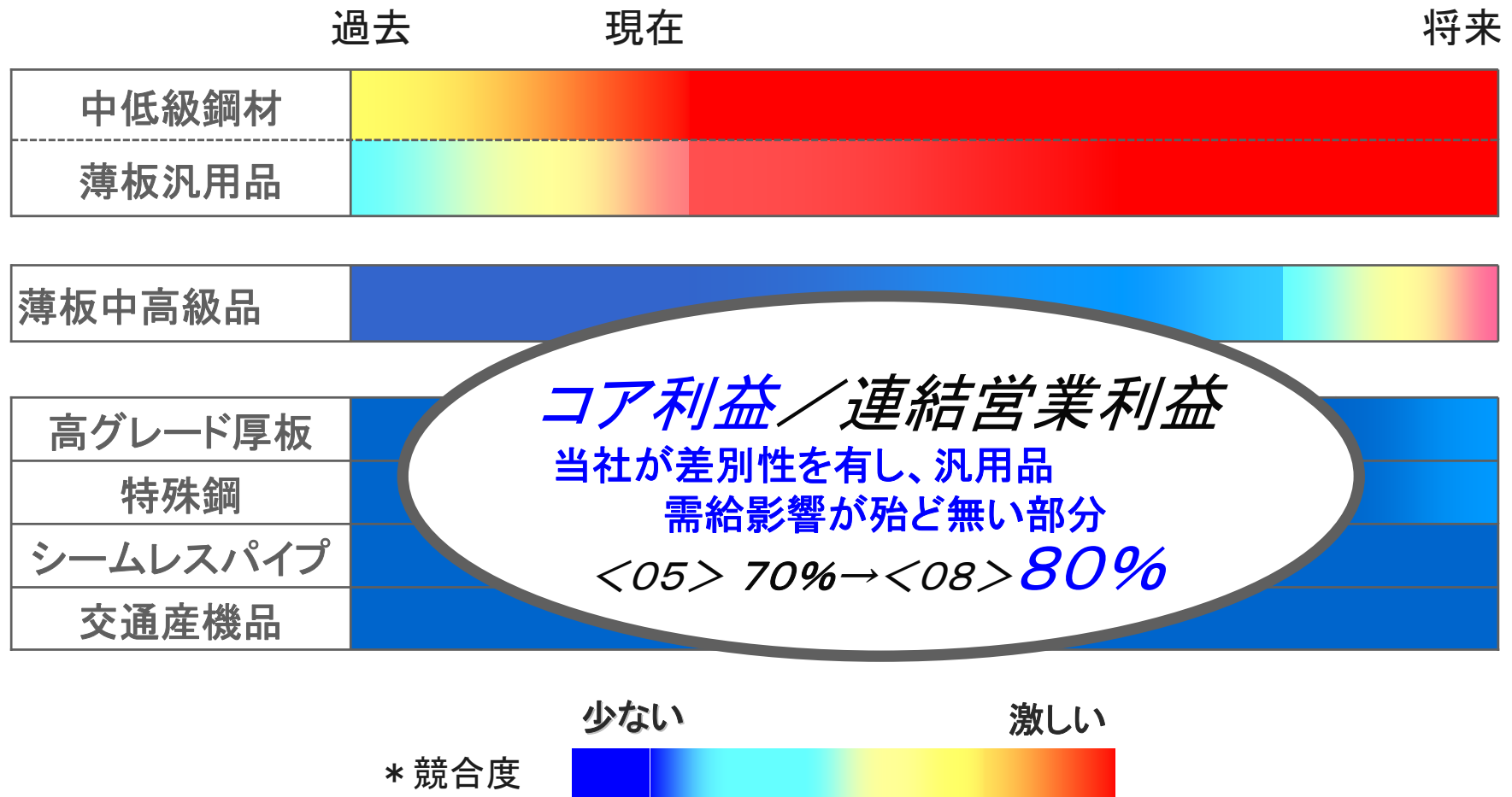
2008

2015

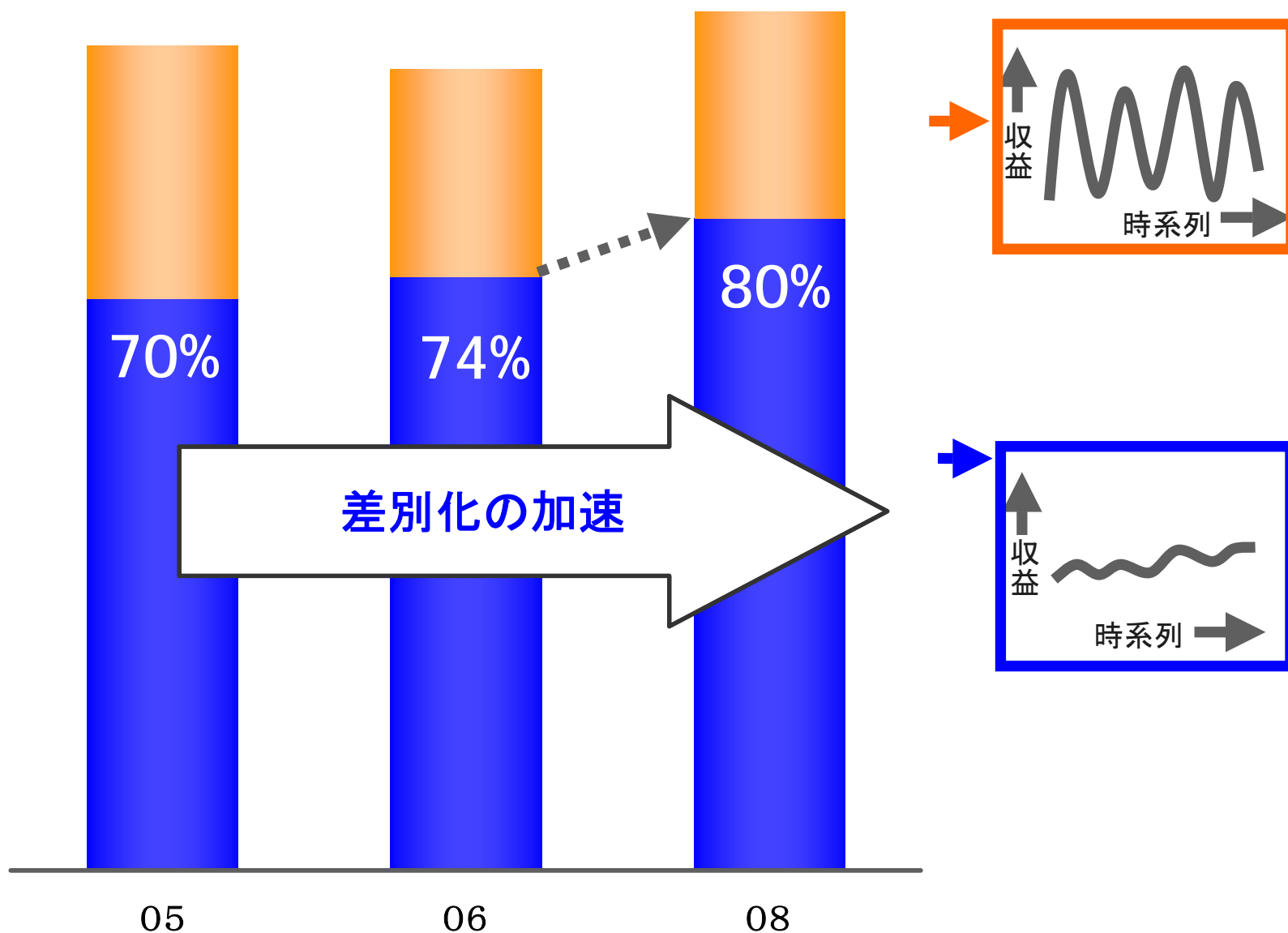


# 市場構造の変化

## 鉄鋼需給想定



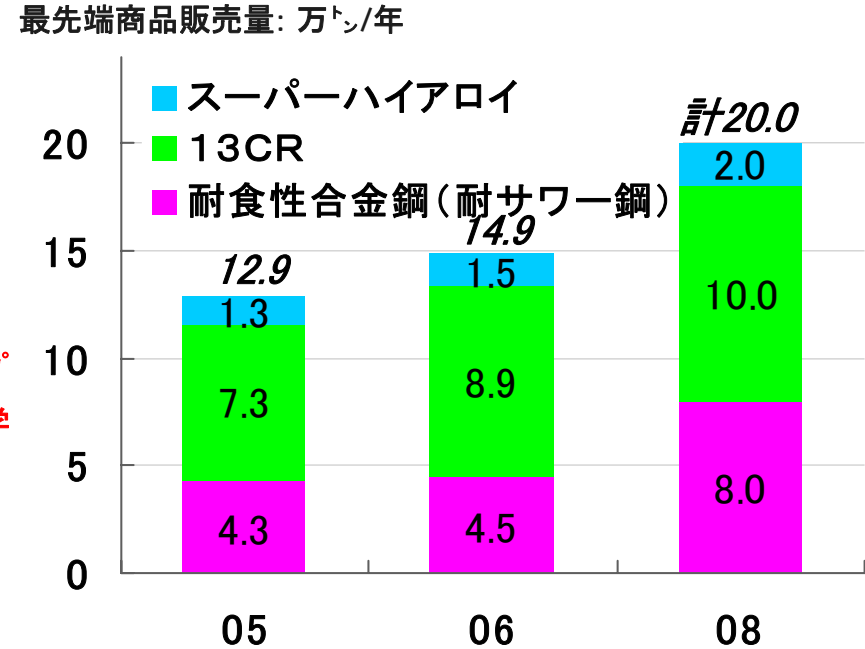
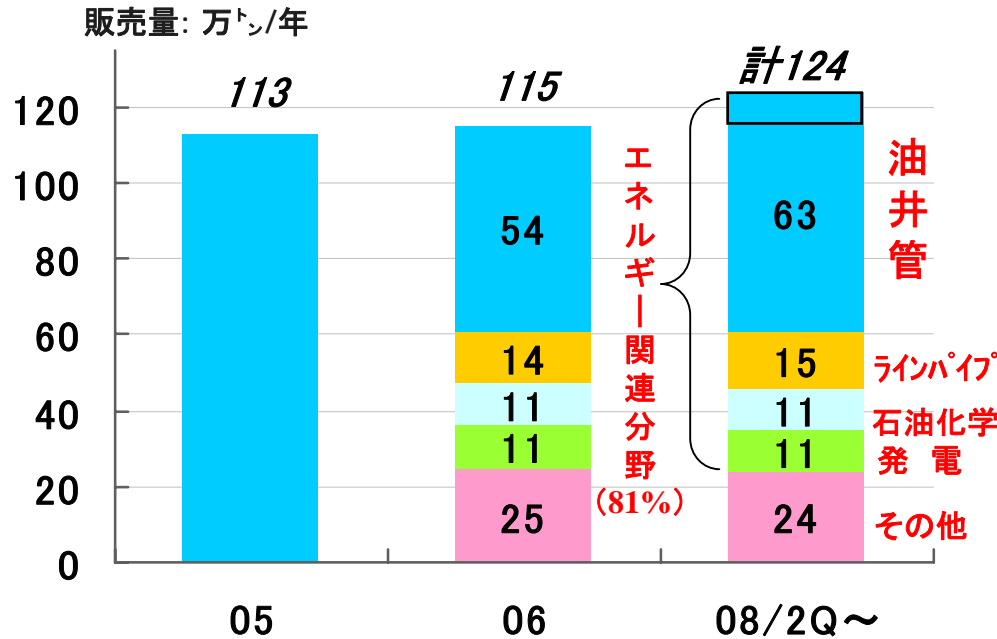
# 当社「コア利益」の推移



比率 = コア営業利益 / 連結営業利益

エネルギー分野

シームレスパイプ



差別化の加速

ハイエンド化推進による更なる差別化とオイルメジャーとのSCM強化  
顧客の高級油井管増量要望への対応

	投資金額	稼動予定時期	規模	
シームレス増強	350億円	~08年度上期	最先端商品を中心 +10万トン/年	➤最先端商品化
ステンレスボイラーチューブ 増強(*)	65億円	~07年度下期	+6千トン/年 (12→18千トン/年)	➤石炭焼き発電所用

## 差別化の加速

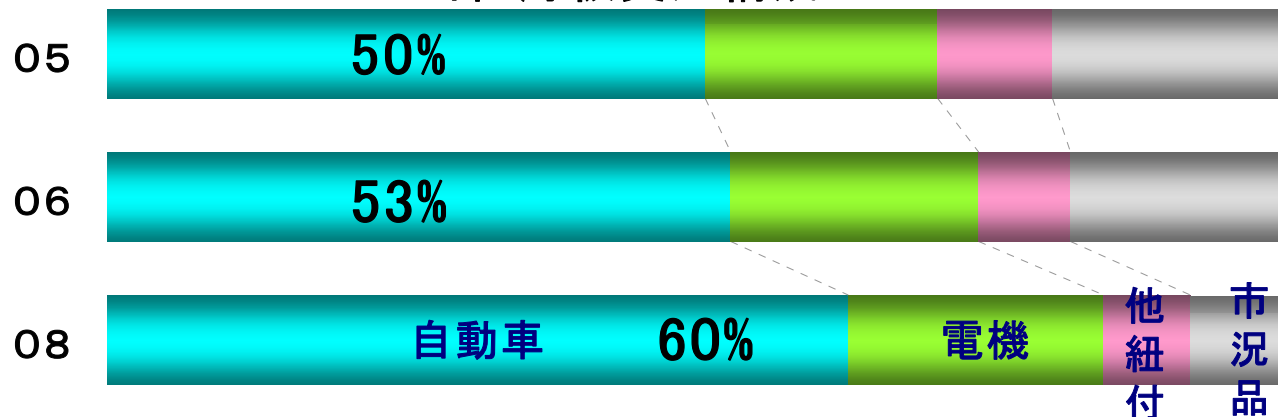
「高強度・高靱性・高寿命」差別化の推進

エネルギー専門営業チーム発足による顧客対応強化

	投資金額	稼動予定時期	規模	
ハイト <sup>®</sup> 厚板拡大	70億円	07年度3Q	+10万トン/年	▶エネルギー分野比率拡大
超高強度ラインパイプ 量産化 (X100以上)(*)	100億円	10年度		▶エネルギー分野差別化

(\*)中期経営計画設備投資の外数

当社薄板受注構成



差別化の加速

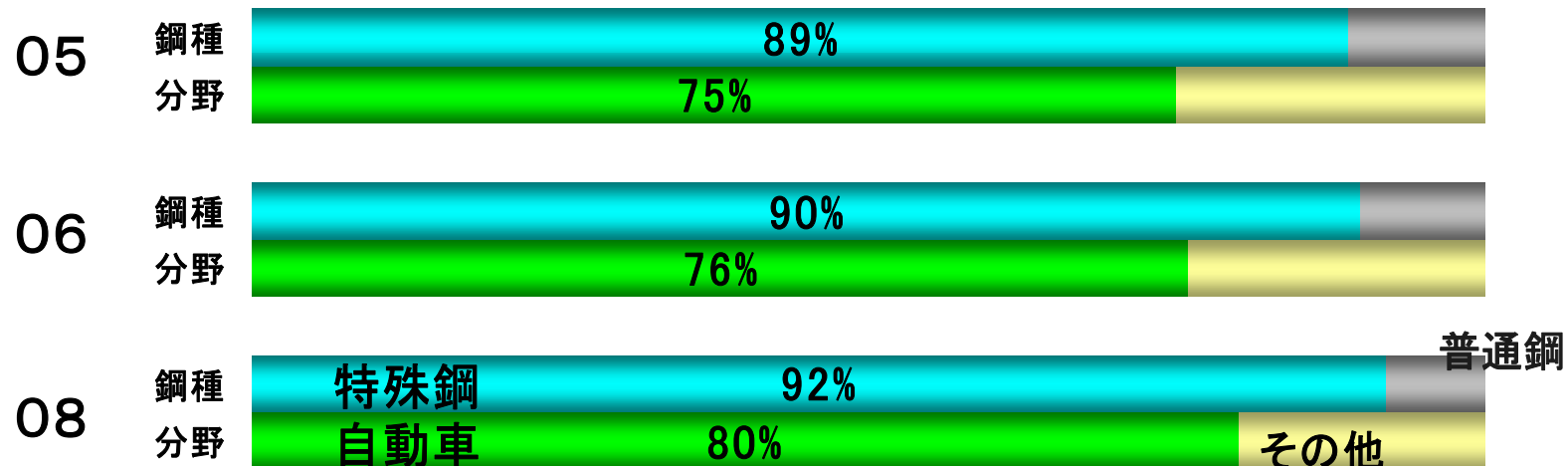
顧客満足度向上の観点でのコイルセンターネットワーク強化  
 品種構成ハイエンド化

顧客深度向上投資

	投資金額	稼動予定時期	規模	
新CGL	170億円	06年度3Q	+30万ト/年	➤自動車薄板強化
連続式酸洗設備	90億円	07年度2Q	+150万ト/年	



## 住金小倉 生産構成

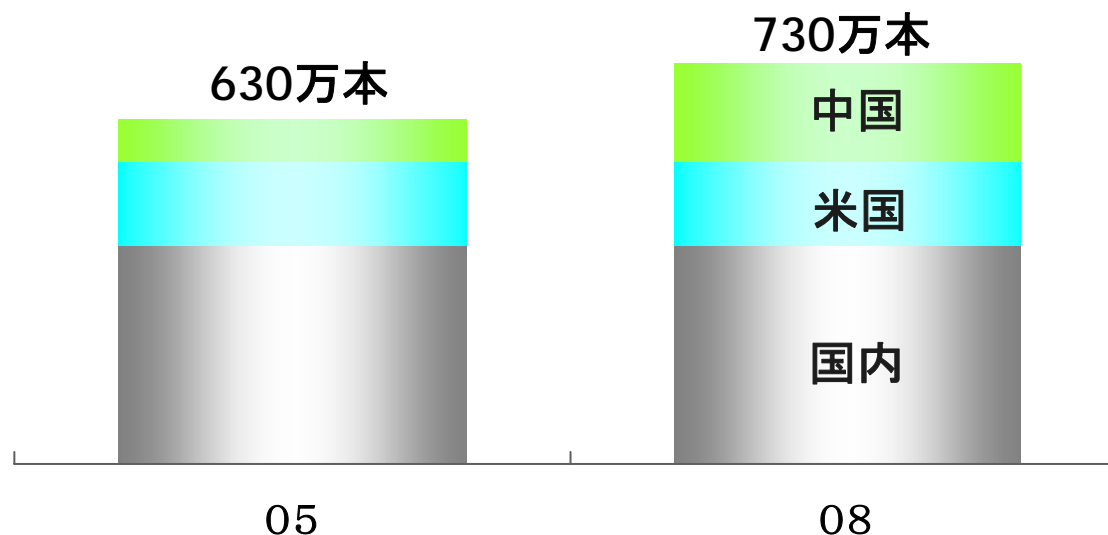


## 差別化の加速

高機能鋼及び高清浄度鋼対応を推進  
日系メーカーの海外展開を支援

	投資金額	稼動予定時期	規模	
製鋼プロセス革新	200億円	~10年度		▶ 特殊鋼品質・コスト競争力強化

## 当社グループ クランクシャフト生産体制



## 差別化の加速

## 自動車メーカーの現地生産増加に対応した海外事業の拡大

	投資金額	稼動予定時期	規模	
中国:惠州住金 第2プレスライン	80億円	~07年度	+100万本/年	▶ 海外事業の拡大
米国:ICI第3プレスライン		~08年度	+125万本/年	▶ 生産性の向上
アセアン				▶ 供給体制検討

# 製鉄所競争力基盤の徹底強化

## 鹿島 「800万トン体制 常時フル操業 世界トップレベルのコスト・品質競争力」

第3高炉改修	290億円	07年度上期	+50万トン/年	➤800万トン体制
IPP(電力卸供給)	570億円	07年度1Q		➤安定収入源

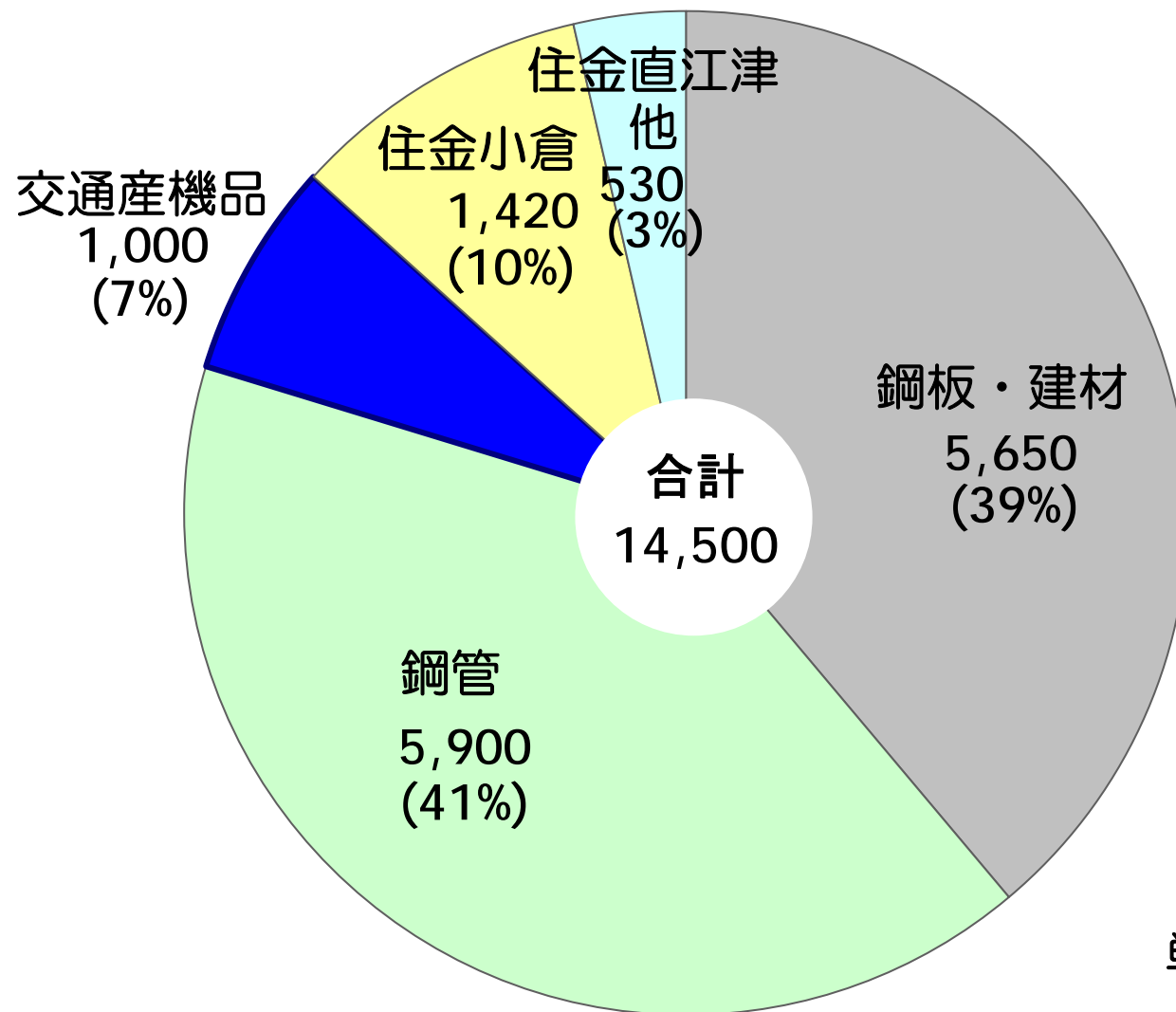
## 和歌山 「No. 1ブランドのシームレスと長期契約スラブによる常時フル操業」

上工程更新	1,600億円	~10年度	+50万トン/年	➤450万トン体制
地域環境保全				➤コークス炉移設他

# 顧客評価No.1の実現に向けて

受賞年月	お客様	賞名	備考
2006年1月	本田技研工業(株)	「品質部門」優良感謝賞 「開発部門」優良感謝賞	当社 住金小倉
2006年2月	トヨタ自動車(株)	品質管理優良賞 技術開発賞	当社:5年連続 当社:3年連続
2006年3月	米国トヨタ	社長賞:Excellent Delivery Performance 社長賞:Quality Performance	ICI社:4年連続 ICI社:2年連続
2006年3月	米国ホンダ	社長賞:Quality Performance	ICI社
2006年6月	Statoil	感謝状	当社

# 06年度連結 鉄鋼セグメント カンパニー別売上高 見通し



単位: 億円